

一九九三年度第一回理事会

四、次年度大会は北海道で開催する。担当は札幌学院大学である。
(文責野崎)

◎日 時 一九九二年一〇月三〇日
◎場 所 牛深市総合センター

審議・報告事項

一、編集担当は吉沢四郎・長谷川昭彦両会員に、国際交流担当は高橋明善・松田苑子両会員にひきつづきお願いする。庶務はとりあえず事務局が請け負い、必要があれば来年度以降庶務担当理事を設ける。研究会担当については、さしあたり会長・事務局を中心に、各地区の理事にも協力を仰ぐ。

二、各理事から、つきのような意見が出された。大会の共通テーマをなくすけれども、一九九二年度の『日韓比較』からの発展も考えたい。家族・村・生産などの諸側面において比較研究が進められるようにしたい。大会テーマはなくとも『年報』にはテーマ性があつていい。またグループ研究(『国際比較』『女性と家』等)の奨励もすべきだ。

三、大会報告の希望が相当増えてきているが、来年度大会の報告の形式は、いまのところやはり分科会にはしない方向である。複数の会場間の移動が激しくて好ましくないことがありうるからである。原則として、報告希望者は全員受付としたうえで、討論の保障・時間調整を考える。発表のルールづくりは理事会の検討課題である。